

## キリコ祭り（秋祭り）の文化の継続・継承

指導教員 石川県立大学 生物資源環境学部 准教授 長野峻介  
 指導教員 金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 博士研究員 小林秀輝  
 参加学生 三谷友翼・中村和詳・中尾康臣・五十嵐秀平・伊藤なの・入場悠莉・北澤駿・古川優依  
 城ヶ端扶・宇多田一世・小田島佑和・岡田祐汰・岡田夏芽・浅野大生・泉磨菜斗  
 清水由理・田中萌絵・菅原凜・藏本晴心・鈴木愛海・関根大貴・黒田雄斗・亀井滉太

### 1. 活動の成果要約

本活動では、珠洲市三崎町栗津地区のキリコ祭り（秋祭り）の文化の継続・継承をテーマとし、外部人材と継続的に連携する仕組み作りと祭りのアーカイブ化を活動の目的としている。3年計画の1年目である本年度は、珠洲と石川県立大学を結んだオンライン勉強会と太鼓演奏体験、珠洲での現地活動を軸に活動を実施した。コロナ対策のためキリコ祭り当日の大学生の祭りへの参加は見送られたが、上述の活動により、定期的に大学生と地域住民が交流し地域について学ぶ機会を持てたこと、そして現地で直接地域住民から祭りの概要や篠笛の演奏技術について指導を受けたことで、外部人材と連携する仕組み作りや祭りのアーカイブ化へ向けて、順調なスタートを切ることができた。

### 2. 活動の目的

能登各地に残るキリコ祭りは日本遺産にも認定されており高い文化的価値を認められているが、将来への継承が課題となっている。本活動が対象とする珠洲市三崎町栗津地区のキリコ祭りも、過疎化や高齢化によって祭りの維持が年々困難になってきている。栗津地区では、地域外から大学生の祭りへの参加を受け入れるなど先進的な取り組みを行い、地区の若手を中心に祭りの継続方法を模索しているが、学生と地域との関係が祭り当日を中心とした限定的なものである等、様々な課題がある。

そこで、祭りの継承のため、外部人材と継続的に連携する仕組み作りと祭りのアーカイブ化を、大学の持つ人的・物的資源を活用してサポートすることを本活動の目的とする。

### 3. 活動の内容

3年計画の1年目に該当する本年度だが、コロナ対策の関連でキリコ祭り当日の大学生の受け入れは見送られた。そのため、本年度の活動は来年度以降の活動を見据え、栗津地区のキリコ祭りの概要を知ることと、祭り当日に演奏される篠笛の練習を中心に実施した。主な活動は以下のとおりである。

- ・オンラインによる勉強会：珠洲（金沢大学能登学舎）～石川県立大学  
 活動期間中、珠洲と石川県立大学とをオンラインで結び、勉強会を定期的の実施した（写真1）。主な参加者は、教員、大学生、地域団体の栗津自彊団の担当者である。



写真1 オンライン勉強会の様子



写真2 キリコ祭りについてのレクチャー

勉強会では、参加者の自己紹介のほか、粟津地区やキリコ祭りの概要について粟津地区の担当者からレクチャーを受けたり（写真2）、これまで粟津地区の祭りに参加した経験のある大学生に経験談を話してもらったり、また現地活動の準備等を行った。

実施日：6/15、6/28、7/12、10/13、10/27、11/15、11/29

・太鼓演奏体験：石川県立大学での現地指導および珠洲からのオンライン指導

活動期間中、キリコ祭りの太鼓演奏を体験する機会を1回設けた。体験は石川県立大学を会場とし、粟津自彊団の若手数名が会場で大学生に直接太鼓演奏を指導したほか、金沢大学能登学舎ともオンラインでつなぎ、珠洲からも同じく粟津自彊団の若手数名による太鼓演奏を会場に中継した（写真3、4）。

実施日：7/30



写真3 太鼓演奏のオンライン指導



写真4 太鼓の演奏練習

・珠洲での現地活動

本来はキリコ祭り当日に大学生が祭りに参加する予定であったが、コロナ対策のためキリコ祭りへの参加は見送られた。しかし、現地での活動は本活動の性質上大変重要であるため、別途大学生が粟津地区現地で活動する機会を設けた。現地活動では、1泊2日の日程（一部日帰り参加）で大学生が粟津地区を訪ね、粟津自彊団や粟津地区住民が指導役となり、キリコやキリコ倉庫の見学（写真5）、篠笛演奏の練習を実施した（写真6）。篠笛の練習では、事前に各自が教員の指導のもと作成した自分局の篠笛を使用した。

実施日：11/19、20



写真5 キリコの見学と太鼓の演奏体験



写真6 地域住民による篠笛演奏の指導

#### 4. 活動の成果

外部人材と継続的に連携する仕組み作りに関しては、今年度は外部人材としての大学生が地域と連携する接点づくりとさらに地域を深く知る学びの場を創出することができた。オンラインによる勉強会や太鼓演奏体験、珠洲での現地活動を通して、大学生と地域住民が継続して対話をすることができ、さらに地域や祭りの実態について相互に直接意見を交わせたことで、大学生が地域と深くかかわる仕組みの形成が始まったと考えている。

こうした成果を上げることができたのは、栗津地区の窓口として学生受け入れに奔走してくれた栗津自彊団の若手の尽力によるところが大きい。地域側に外部人材の受け入れに理解があること、そして実際に受け入れのノウハウが整っていることが、外部人材との継続的な連携には重要だと感じられた。

アーカイブ化に関しては、祭り当日やその前後の記録活動はコロナ対策のため実施できなかったものの、今後の外部人材の祭り参加や囃子の楽譜や練習テキストの作成へ向けて、祭りに使用する篠笛の製作を経験し現地で演奏の指導を受けることができた。それに伴い、以下の成果があった。

##### 1) 篠笛製作技術の習得

通常の篠笛に用いられる竹に代わる材料として塩ビパイプを用いて篠笛の製作を行った。キリコ祭りでは地域独自の音階に調律された篠笛が用いられているため、市販されている篠笛を用いることはできない。そのため、能登の篠笛製作者による竹製の漆塗りの篠笛を使用することが多いが、自作した塩ビパイプ製の篠笛から使い始めることもあるとのことであった。そこで、栗津地区の篠笛の歌口や指孔の大きさや間隔を測定し、その寸法に合わせて塩ビパイプに穴あけから研磨までの製作作業を行った。今回製作した塩ビパイプの篠笛でも栗津地区の篠笛と同様の音階で鳴らすことが確認でき、一連の篠笛の製作技術を習得することができた。

##### 2) 篠笛演奏技術の向上

学生各自で製作した篠笛を使用して、実際に音出しを行った。篠笛は音を出すだけでも演奏技術が必要な楽器であり、当初は音出しの過程で学生によって技術の差がみられたが、現地活動の際に栗津自彊団や栗津地区住民による演奏技術の指導を受けたことで、多くの学生が今後お囃子の曲の演奏につながるレベルまで演奏技術を向上させることができた。また、栗津地区住民によるお囃子の演奏を撮影し、撮影した動画を教材に使用して、大学での練習や学生の自己練習が可能となった。

#### 5. 次年度以降の計画

本年度は、オンラインによる勉強会を定期的開催できたことにより、教員と大学生、栗津自彊団とをつなぐネットワークを作ることができた。令和5年度以降は、このネットワークを中心として、祭りの勉強会や囃子の練習等を通じた地域との交流を続け、キリコ祭りに当日のみの担ぎ手だけでなく囃子方など広く大学生が参加するノウハウを確立し、外部人材との連携モデルの提言のための実践的活動を推進する。

アーカイブ化に関しては、太鼓や篠笛の練習を動画教材や栗津地区住民の指導により進め、学生の演奏技術をさらに向上させ、お囃子の楽譜や練習テキストの作成を目指していく。また、来年度はキリコ祭りに実際に参加し、当日および運営や準備、片付けなどを含めた祭りの様子を記録することで、祭りのアーカイブ化を実技と記録の両面で推進する計画である。

#### 6. 活動に対する地域からの評価

栗津地区自彊団の濱山隆浩氏から、以下のような評価をいただいた。

「経験したことがない篠笛の製作や演奏に取り組んでもらい、大変感謝しています。学生が一生懸命取り組む姿を見て、協力を依頼して良かったと思いました。地域側でも今まで知らなかったことに気づけたことが良かったです。」